

「六甲山の治山の歴史を訪ねる」ツアーの開催

神戸県民センター六甲治山事務所

1. はじめに

六甲山は江戸時代から明治時代にかけて過度な伐採、採取が行われてきたことや山火事などにより、大部分がはげ山になっていました。また六甲山の地質は主に花崗岩で脆く崩れやすい性質を持っており、水害や土砂災害を度々起こしてきました。このため、明治35年にはげ山復旧として神戸市が植林を開始し、その後の土砂災害を教訓に治山・砂防施設が整備されてきました。再度山には今も植林のために築かれた明治の石積み遺構が森林を守り、数多くの施設が災害防止に効果を発揮し、現在の緑豊かな六甲山の礎になっています。

2. 開催概要

(日 時) 令和元年10月17日(木)
(場 所) 神戸総合庁舎、再度公園周辺
(参加人数) 34名

六甲山の治山の歴史を訪ねる
ツアー 参加者募集!!

開催日: 令和元年10月17日(木)
場 所: 神戸総合庁舎(10:00から12:00)
神戸市中央区中山手通6-1-1
再度公園周辺(13:00から16:00)

午中は講演会
・「六甲山の成り立ち」
神戸親和女子大学教授 齊本 格(はしもと いさる)
・「六甲山の治山」
六甲治山事務所長 村上 隆茂

午後から、バスで再度山公園に移動し、六甲山の土がえった豊かな緑の園(いしずき)を拝見。
森林(ストラクチャー)による「自然観察会」も実施。
講演後は、再びバスで神戸総合庁舎に戻り、解散。

参加費: 無料(昼食は各自で用意して下さい。)
申込期限: 令和元年10月10日(木)必着
申込み方法: 書面申請
定員: 40名(申込先着順)

主催 兵庫県神戸県民センター六甲治山事務所

案内チラシ

阪神淡路大震災から25年の節目であることから、六甲山の地質に詳しくプラタモリの神戸編に出演された神戸親和女子大学の齊本教授に講演をお願いして実施しました。



「六甲山の成り立ち・生い立ち」講演の様子



「六甲山の治山」講演の様子

この貴重な箇所を広く一般住民に知ってもらうため、六甲山の治山の歴史を紹介するとともに、再度山に今なお残るこれらの遺構や周辺の治山施設、大竜寺周辺に残された照葉樹林を歩いて巡る「六甲山の治山の歴史を訪ねる」ツアーを開催しました。

当ツアーは今年で3年目を迎え、多少内容を変えながらも毎年好評をいただいています。初めて開催した平成29年度は、昭和42年豪雨災害から50年の節目であったことから六甲山の災害展の特別企画として実施し、平成30年度は、昭和13年阪神大水害から80年、県政150周年記念事業の一環として神戸山手大学と連携して実施し、今年度は

- (1) 講演会(神戸総合庁舎)
- ①「六甲山の成り立ち・生い立ち」
神戸親和女子大学齊本教授より、六甲山地が成り立つ過程や地形、地質、断層などから過去に発生した災害の検証、災害に対する向き合い方などの講演を行っていただきました。
 - ②「六甲山の治山」
六甲治山事務所村上所長より、再度山の植

(2) 現地見学会(再度公園―大竜寺―蛇ヶ谷―再度公園)

講演会終了後、大型バスにて再度公園まで移動し、4班に分かれて見学会を行いました。はげ山からの復旧の歴史、治山施設等の説明と合せて、森林インストラクター兵庫による自然観察会も実施しました。

- 主な見学ポイントは次の通りです。
- ① 明治時代の植林と石積み遺構
植林のために積まれた石積みと現在の植生状況
 - ② 照葉樹林
社寺林として守られた大竜寺周辺の植生状況

③ 蛇ヶ谷の治山施設

古くからある石積み堰堤や昭和42年災害などにより設置された治山ダム



明治時代の石積み

④ 修法ヶ原池からの再度山ビューポイント
はげ山だった明治時代と現在の森林に回復した姿を比較



S44治山事業



治山施設を解説



自然観察会を実施

3. 参加者の感想

当日行ったアンケートの結果、参加者の9割の方から「とてもよかった」または「よかった」との回答を得ました。また、印象に残ったものとして、講演会では「治山事業の取り組み」、「六甲山の生い立ち・成り立ち」、現地見学会では「治山ダム」、「明治時代の石積み」を30%以上の方が挙げました。

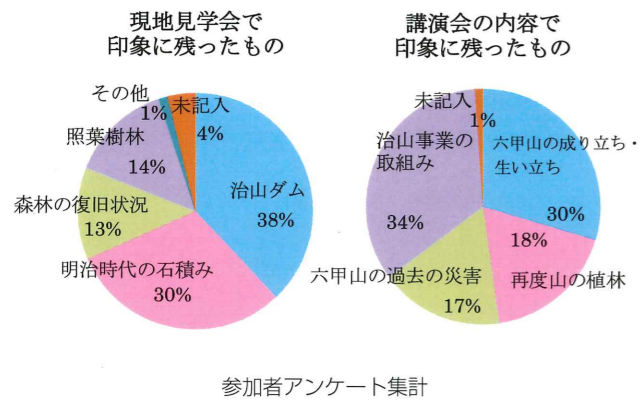
参加者からは次のような意見、感想がありました。

- 個人で歩いていては見逃すものを見させていただきました。
- 日頃、恩恵を受けている六甲山が治山により私たちの生活が守られていることが良く理解できました。
- 100万年単位の六甲山の成り立ちと現在の治山、森の取り組みが良くわかりました。
- 被災者として、六甲山の治山・治水の再発見でした。我が家の隣接地が土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に指定されているにいたり、色々な知識を得るために参加しました。
- 初めて見るものが多くとても興味深かったです。植物のお話もたくさん聞かせていただき、大変楽しかったです。

4. おわりに

今年度は当ツアーを平日に実施したため、当初参加者が集まる心配しましたが、「県民だよりひょうご」などへ記事を掲載した効果もあり、早々と定員に達しました。このことから、予想以上にこの企画に関心を持っている方が多いと感じました。参加者の年代は40代から80代で、60代70代の方が中心ですが、80代の方も2名参加いただきました。こちらの心配にもかかわらず元気に歩かれていました。

今般、日本各地で豪雨災害が頻発する中、防災への関心も高まっています。これからも「六甲山の災害展」で災害のパネル展示や土石流実験装置の実演等を行うとともに「現地見学会」で治山施設など実物を見て体感してもらうツアーの2本立てのイベントを続けていくことにより、多くの方に治山事業を知ってもらい、土砂災害に対する知識や防災意識、自助意識の向上に寄与できるよう取り組んでいきたいと考えています。



再度公園で記念撮影

